

厚生労働省

麻疹に関する Q&A

<http://www.mhlw.go.jp/ga/kenkou/hashika/index.html>

はしか(麻疹)の流行について<以下、厚生労働省のホームページより抜粋>

今年に入り、はしか(麻疹)の患者数が増加しております。

国立感染症研究所が4月8日に公表した調査によると、今年の患者数は3月30日までで231人にのぼり、昨年1年間の患者数(232人)にほぼ並びました。患者数は昨年の同時期までと比べて3倍以上となっているようです。春から夏にかけてが流行期のため、さらに患者が増える恐れがあり、注意が必要です。

地域別では、東京41人、千葉22人、埼玉21人など首都圏のほか、静岡27人、京都22人、大阪16人などで多い、とのこと。

1) 麻しんとは？その症状は？

麻しんは麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。また、麻しんウイルスは、ヒトからヒトへ感染すると言われています。

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても1000人に1人と言われています。

2) 麻しんの予防法について

麻しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできません。麻しんワクチンが有効な予防法といえるでしょう。また、麻しんの患者さんに接触した場合、72時間以内に麻しんワクチンの予防接種をすることも効果的であると考えられています。

次項でも述べるように、最近では成人の麻しん患者の割合が増加しています。定期接種の対象者だけでなく、医療・教育関係者や海外渡航を計画している成人も、麻しんの罹患歴や接種歴が明らかでない場合は予防接種を検討してください。

3) 流行について

麻しんは毎年春から初夏にかけて流行が見られます。過去5年の推移を見ると、平成19・20年に10～20代を中心に大きな流行がみられました。今年も流行の兆しがみられます。

4) 予防接種について

今まで麻しんに罹ったことが確実である場合は、免疫を持っていると考えられることから、予防接種を受ける必要はありません。しかし、麻しんかどうか明らかでない場合はかかりつけの医師にご相談ください。たとえ罹ったことがある人がワクチン接種をしても副反応は増強しません。

もし、麻しん又は風しんの片方に罹ったことがあっても、他方には罹っていない場合、麻しん風しん混合ワクチンの接種を任意で受けることができます。

5) ワクチン接種を受けた方が良いのはどのような人ですか？

定期接種の対象年齢の方々(1歳児、小学校入学前1年間の幼児、中学1年生、高校3年生相当年齢の人)は、積極的勧奨の対象ですが、定期接種の時期にない方で、「麻しんにかかったことがなく、ワクチンを1回も受けたことのない人」は、かかりつけの医師にご相談ください。

平成2年4月2日以降に生まれた方は、定期接種として2回の麻しん含有ワクチンを受けることとなりますが、それ以前に生まれた方は、1回のワクチン接種のみの場合が多いと思います。医療従事者や学校関係者・保育福祉関係者など、麻しんに罹るリスクが高い方や麻しんに罹ることにより周りへの影響が大きい場合、流行国に渡航するような場合は、2回目の予防接種についてかかりつけの医師にご相談ください。

6) 麻しんの予防接種を受けるのに、単独の麻しんワクチンの代わりに、MRワクチン(麻しん風しん混合ワクチン)を接種しても健康への影響に問題ありませんか？

麻しんの予防対策としては、MRワクチンは単独ワクチンと同様の効果が期待されます。

また、麻しんワクチンの代わりにMRワクチンを接種しても、健康への影響に問題はありませぬ。むしろ風しんの予防にも繋がる利点があります。

ただし、MRワクチンは、生ワクチンという種類のワクチンですので、妊娠している女性は接種を受けることができません。また、妊娠されていない場合であっても、接種後2カ月程度の避妊が必要です。おなかの赤ちゃんへの影響を出来るだけ避けるためです。

また、麻しんの単独ワクチン、風しんの単独ワクチンの接種に当たっても、妊娠している方は接種を受けることはできません。接種後2カ月程度、妊娠を避けるなど同様の注意が必要です。